

令和4年度

10月18日（火）



鹿沼市地域学校協働活動研修会
& コミュニティ・スクール研修会
兼 公民館事業担当職員研修会

鹿沼市は、コミュニティ・スクール推進にあたり「つながり」「一体的推進」を念頭に置いています。そこで、コミュニティ・スクール研修会と地域学校協働活動研修会を一体的に進めることにしました。また、地域づくりには公民館が核になるので、公民館事業担当職員研修会も合わせた合同研修会を開催しました。



この日は、一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事である廣瀬隆氏と南摩一本杉農園のオーナーである福田大樹氏を講師としてお迎えし、対談フォーラムを行いました。世界を旅した福田氏が、なぜ地元に戻って地域のために働いているのかを廣瀬氏の巧みなファシリテーションの力で引き出してくださいました。

①海外のいろいろな土地（16か国）を回ってきたけれど、平地で開けているところはそんなになかった。よそを見ることを通じて、自分の地域やまちの良さを再発見した。よそに出ることは、そんなに悪いことではない。

②長男ということもあり、小さいころから折に触れ祖母に「土地は継ぐこと」を話してきかされていた。よそから戻ったとき、「寂しい街になったなあ。」
「自分が知っていたまちにしたい!!」 そう思った時、

景色の中に人を入れたい

と思った。自分で何か始めるのが好きだったこともあり、地域で行っている「地域の夢実現事業」の中の「なんま夢やさいプロジェクト」に参加した。そして、中学校の総合的な学習の時間の中で、中学生といろいろな関りをもった。「里山百手」「カフェづくり」「畑の工芸品づくり」・・・etc

・・・まだまだ、魅力的なお話が続きます。・・・



廣瀬氏からは、

- ①彼（福田氏）はどんどん化ける。どう変わっても拍手喝采で応援してやってほしい。そして、福田氏は、地域づくりの爆弾（起爆剤）になってほしい。
- ②「地域」の定義が曖昧になっている。もはや、物理的な線引きではないと思う。精神的なコミュニティになっていると思う。そして、「人のつながりが切れた」と言われているのもコミュニティ感のずれではないかと感じている。

そして、さらに印象に残ったのが、廣瀬氏の「**買い支えてほしい**」という言葉でした。北海道の酪農家を支えるための牛乳の話在具体例に出されました。我々は、経済性・効率性・合理性のような目先のことばかりに目を向けて、人の真理から遠ざかってしまったのかもしれませんが。地域づくりにとって、本当に大切なものは何かを立ち止まって考える素晴らしい機会となりました。





グループワークをしましたよ

廣瀬氏と福田氏の対談フォーラムの後、地域・立場（地域学校協働活動推進者、教職員、公民館職員）をばらばらにしてグループを作り、地域の自慢、地域づくりの悩みなどを共有しました。



参加者の感想を
紹介します。



つながりをもつ
というめあては
達成！！
他にも素敵な感想
が…

- ・様々なつながりが持てたので、とても学び多い時間になった。
- ・このような研修会を通して他校の先生や地域コーディネーターの方とつながることができてとてもありがたいと思う。
- ・いろいろな立場の方の話をグループワークで聞くことができ、よかった。来年度からのコミスクの参考になった。
- ・各地区で大小の違いはあっても、鹿沼市内の学校にはたくさんの地域ボランティアの方がもともと関わってくれているんだなあ、と感じた。コミスクもあまり難しく考えなくてもいいと思えた。
- ・人とのつながりは、地域だけでなく自分の生き方にも大きく関わりがあると思う。いろいろな人と話せて楽しかった。